



えんげ 嚥下障害

稲城市保健センター
☎378-3421

食べ物や飲み物を飲み込むことを嚥下と言い、飲み込むことがうまくできなくなることを嚥下障害と言います。嚥下障害は①通過障害（口やのどに痛みを生じる病気、口やのどの腫瘍、食道の病気）、②口やのどの筋肉の動きが悪くなる病気（脳や神経、筋肉の病気）、③心因性（神経性食欲不振症、ヒステリー、うつ病や心身症）、④医原性（薬剤、手術による神経や声帯の損傷、経管栄養チューブ）によって起こります。以上の病気が無くとも高齢者の場合には口や舌、のどの筋肉の動きが悪くなり嚥下障害が起こります。嚥下障害が起きると、特に高齢者だと窒息、気管支炎、食物が肺に入ると肺炎になることがあります。

嚥下障害は色々な症状が見られます。口臭や口の中の乾燥、それとは逆に唾液

が溜まる、よだれが出る。口の中に食べ物が残っている。食事の様子では食物を口にほとんど入れない。食物をこぼす、むせる、食事に時間がかかる。食べる量が減った。固い物が噛みにくくなった。呼吸や声の変化では食後に痰がからんだ声になる。大きな声が出せない、何時も痰がからんでよく咳をする等が起こってきます。肺炎になると熱が出ます。高齢者の場合には熱が出ないこともあります。肺炎では痰が多くなる。元気がない。体重が減った等が見られます。

嚥下障害の検査は色々ありますが今回は2つの検査法を紹介いたします。①回復唾液嚥下テストは家庭でもできます。口を水で湿らせた後、30秒間に3回以上の嚥下ができれば正常です。②嚥下内視鏡検査は実際に食べ物を嚥下し気管に入り込むかどうか検査できます。治療は患者さんの状況で異なり、リハビリテーション、食物形態の工夫（きざみ食、ミキサー食、とろみ食）等です。

稲城市医師会 木村 榮成